



加30度を超える暑い日となりました。組合員は脱原発をしつかりアピールしました。

集会後、グリーンコープの組合員は、渋谷駅前までのデモ行進に参加しました。全国の仲間とともに組合員手作りの横断幕を手に、「原発事故は終わっていない、再稼働反対！」の声を上げながら道行く人々に訴えました

2017年9月18日、東京の代々木公園で、「ともに生きる未来を！さようなら原発 さようなら戦争全国集会」が、「さようなら原発」一千万署名 市民の会などの主催で開催され、全国から脱原発を訴える団体や個人約9500人が集まりました。

グリーンコープからは、志を同じくする全国の仲間と脱原発を社会にアピールするために、組合員13人が参加しました。

集会のようすと参加した組合員の思いを紹介します。

グリーンコープからの参加者の感想 「さようなら原発」を合言葉に

グリーンコープ生協ひろしま 副理事長 反岡 佐千代さん

住んでいる場所も立場も違うけれど「原発とは共存できない」という共通の思いで全国から集まった仲間たち。みんなと出会い同じ時間を共有し、パワーをもらうことができました。子どもたちが安心して生活していくためにも「さようなら原発」を合言葉に活動を続けていきたいと思いを新たにできた集会でした。

脱原発へ思いを同じくする人々とともに

グリーンコープ生協ふくおか 北九州地域理事長 坂本 寛子さん

炎天下のさようなら原発集会。ステージ上で反原発の思いを訴える人、その思いに呼応する参加者の声援や拍手。人々の反原発への思いがうねりの様に感じられる時間でした。その中でも、自主避難して賠償訴訟原告団代表をされているお母さんの「自分の子どもだけが助かるのではなく、福島に住むすべての人が幸せでないといけない」という言葉がとても印象的でした。脱原発の思いの人がこんなに多くいるとわかつてうれしかったです。

未来を繋ぐ子ども達の明るい未来の為に

グリーンコープ生協くまもと 副理事長 竹内 智子さん

福岡での集会に続き2回目の参加でしたが、その時より「原発反対！」の声は強くなっていた気がします。3.11から6年半。福島を離れて子どもと一緒に大阪で避難生活をされている方が「憲法で保障された平和に生きる権利を奪われてきた」という言葉には、同じ母親として胸が苦しくなりました。未来を繋ぐ子ども達の明るい未来の為に心一つに声を上げデモに参加してきましたが、何故か悔しい想いが心に残りました。

台風一過、真夏のような暑さになつたこの日、約40団体のブースや各団体の人々、幟で会場は埋め尽くされました。呼びかけ人の一人、作家の落合恵子さんが、「今日の暑さに負けない位の熱い思いと怒りを抱いて、再び私たちはここに集いました。爪に火を灯すようにしてようやく手

い」と決意を述べました。福島から2人の子どもを連れて大阪に自主避難している女性は、「今この国は平和と胸を張って言えるでしょうか。避難している間、「平和のうちに生きている」と実感したことから放射線被曝の恐怖

を語りました。佐賀県から参加した、核兵器のない平和な社会をめざして活動している

原発はいらない！
思いをひとつに

そのような中、九州電力管内では、2015年から川内原発1、2号機（鹿児島県薩摩川内市）が稼働し、さらに、玄海町（玄海町）は、再稼働に向けた手続きが最終段階に入ろうとしています。

グリーンコープの脱原発運動は、さまざま取り組みを経て原発フリーをめざす電気の共同購入をめざす電気の共同購入へと進んでいます。また、各地で自然エネルギー発電に取り組む団体とともに、発電所づくりも進めています。

安心して暮らしたいと 願う人々からの訴え

にしたふるさと福島の家を、今もつて離れるを得ない人々がたくさんいることを、私たちは決して忘れません」と力強く訴えました。

No.112



『脱原発への思い』

~原発事故を忘れない、子どもたちに安全な未来を渡したい~

あの恐ろしい東京電力福島第一原発事故から、まもなく7年になろうとしています。未曾有の原発事故でたくさんの被害がでたことを、もうこの国の人たちは忘れてはしまったのでしょうか。

世界は確実に「脱原発」へと向かっています。ドイツでは2020年までに原発全廃、スイスでは国民投票で2050年までに脱原発を達成させるという方向性を決めました。一方、日本では※55基ある原発のうち、川内原発、伊方原発、高浜原発において、何事もなかったかのように再稼働されています。さらに、佐賀県知事が玄海原発再稼働を容認するなど、再稼働が当たり前、決まったことのようになってきています。

子どもや家族に安心・安全なものを食べさせたいという思いで集まった私たちが、大切な子どもたちの安全な未来のために、原発のない社会に向かっていけるようにしませんか。そのために、グリーンコープでんきの加入やグリーン電力出資金への出資など、自分たちのできることから脱原発運動に参加していきましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会

※2016年8月末現在の各電力会社の情報をもとに作成した、グリーン・市民電力「電力の選び方で未来が変わる？」チラシより



一般社団法人グリーン・市民電力から
グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,709人 1,088,408,000円
(2017年11月1日現在)

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2017年9月の売電量

若宮物流センター太陽光発電所売電量
3,669kWh
定格出力47kW(13世帯相当)
神在太陽光発電所売電量
99,720kWh
定格出力1,057kW(280世帯相当)
平池水上太陽光発電所売電量
130,033kWh
定格出力1,260kW(380世帯相当)

若宮物流センター太陽光発電所売電量

4,325kWh
定格出力47kW(13世帯相当)
広島物流センター太陽光発電所売電量
5,465kWh
定格出力54kW(15世帯相当)